

教育
相談室

子どもの心に響く話

小学校五年と三年の二人の子どもがあり、共働きで、祖母が家にいます。最近、長女が家で妹をいじめたり、いじわるをすることが多くなったので、「お姉さんだから、妹をかわいがって」と、注意しますとお反発し、妹が泣くまで続けます。また頭痛や腹痛を訴えて学校に行くことを嫌がったり、早退することもあります。いじめっ子や不登校にならないかと心配しています。どのようにしたらよいでしょうか。

一、心を支えて

三、四才の幼児期に、温かいかわりを十分受けることによって、子どもの心は安定し、自立を促すとされています。

幼いころからさびしさや不安が、症状や行動に現われることがあります。

本当は、もつとお母さんに甘えたり、時にはかばってほしかったりする気持ちや、「お姉さんだから」という言葉によって、ぴしゃりと止められ、苦しんでいるのではないのでしょうか。妹

二、認めて自立促進を

よいところをみつけて「さすが、おねえちゃんね」と認めるお母さんの言葉は心にぐんと響くものです。認められることによって自信が付き、人を信頼する心が育ちます。安心し自信を

の方をかわいがっているように感じて、つらい気持ちがいじめるという行動になっっているようです。妹と同じように、時には妹以上にいたわり、心の揺れをしっかり受け止めていきましょう。

持てば、いじめっ子にはなりません。

三、学校に相談して

家庭での不安が、学校へ行くことを嫌がる遠因の場合もありますが、友達関係など学校生活に起因することも考えられます。

早期に担任と相談するとよいでしょう。

これからは、特にお父さ

市民会議では、次代を担う青少年が世界に向け、自覚と責任をもって、健全にたくましく成長することを願うと共に、感動を覚える機会を持つよう支援する必要がありますと考えます。そこで、広く市民の参加を求めると共に、関係団体等との連携を深め、青少年健全育成の意識高揚を図る活動を推進しております。

青少年健全育成
鯖江市民会議の活動
——スローガン——
伸びよう 伸ばそう
鯖江の子ども

- 一、明るい家庭づくりの促進
- 二、青少年の社会参加活動の促進
- 三、地域における青少年活動の促進
- 四、地域ぐるみの環境浄化活動の促進



主性を尊重して応援することが大切です。



「はぐくみ」も、平成三年十二月の第一号発行から今回、第十号を迎えることができました。

この協力が必要で、一緒に活動できることを工夫して、ことさらに構えずゆっくりに絆を深めていきましょう。両親が、ゆとりを持って子どもの心に寄り添い、自

はぐくみ

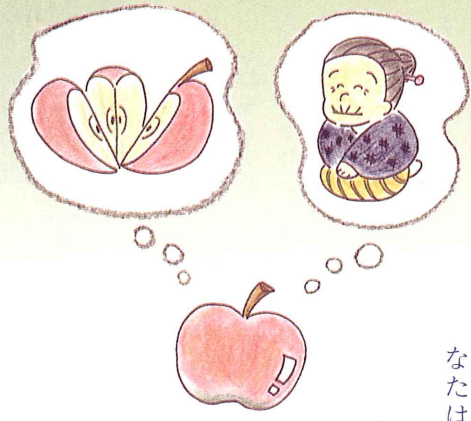
発行
鯖江市教育委員会
鯖江市社会教育委員会
青少年健全育成鯖江市民会議
協力
丹南愛護センター鯖丹支所



10号

ひきだそう、子どもの感性!

(中河小学校児童)



あなたの感性度チェック! =豊かな心を作る三つのヒント=

滴 ヨーロッパの家庭では、古くから連綿として受けつがれ、大切にされている三つの理念があります。一つは料理。二つめは育児。三つめは奉仕の精神です。日本はどうでしょうか。

日本では、古くから連綿として受けつがれ、大切にされている三つの理念があります。一つは料理。二つめは育児。三つめは奉仕の精神です。日本はどうでしょうか。

人間性をはぐくむ『家庭』

念を打ち立てる必要があるのではないのでしょうか。さて、今号からはそうしたときお母さんはどうしたのでしょうか。

た視点からの提案をしたいと思えますので、御一緒に考えていただきたいと思えます。まず第一に、家庭は人間性を培う最高の場である、ということ。人間の要素にまず感性をあげ

ることができません。感性とは、感情を含んだ心の豊かさのことで、愛情・情操・共感・感動・創造性などを指します。そこでまず反省の糸口として、お母さんの感性度チェックをしてみることがにしましょう。

残した一つのリンゴ



算数の時間に次のような問題が出ました。「ここにリンゴが四つあります。これを三人にわけけるにはどうしたらいいでしょう。」

この問題にほとんどの子は「一個と1/3」と答えました。ところが一人だけ「一個と答えたのです。もちろんペケでした。」

この事を家に帰ってお母さんに言いました。「一人に一個では一つ残るでしょう。これでは答えにならないんじゃないの？」

するとその子は、「一個は、バアちゃんにあげたかったの」といったのです。さてあなたがお母さんだったらどうしますか？

「この場合はバアちゃんを考えなくていいの、あなたの答えは間違っています。」と注意しますか？それして内心ひそかにこんな問題ができないようでは大変だと心配しますか？

子どもが可愛がっていたペットの小鳥が死にました。その子は冷たくなった小鳥を両手で温めるように持ってお母さんに、「小鳥のピー子が死んだア」と言っ

て涙をためていました。あなたはどうか対応されますか。「死んだものしょうがないでしょう」といってゴミ箱にポイと捨てますか。「また買ってきてあげること約束しますから」と約束しますか……？

りんご一個を残してバアちゃんにやるんだと言った子。そ

のときお母さんはどうしたのでしょうか。

とっさにその子をしっかりと抱いて、「あなたはやさしいのね」と頭をなでてやりました。子どもは「よかったです」とうれしそうでした。

ペットの小鳥。この子のお母さんはこのように対応しました。「あら可愛そうに……。ピーちゃんのお墓を作ってあげようね」と、二人は庭に小さな穴を掘って、ピー子を埋め、お花を一本立てて、手を合せました。

なんだそんなやさしいなこと、と思わないでください。こうしたこと積み重ねが豊かな心をはぐくむのです。

さてあなたはどちらのお母さんのタイプでしょうか……？

あなたか、いことを……？

ことばは、自分の思いを表したり、人と人との心の交流をはかる大切な役目を持つています。家族の絆もまたことばの使い方、内容などで大きく影響されるものです。

とってお母さん、毎日どれくらい家族を喜ばせ楽しくさせることばをかけていますか。

「おはよう」「いってらっしゃい」「おかえり」「よかったですね」「おいしいね」「ごちそうさま」「ありがと」「よくやったね」「いいわね」。こんなことばがいつもとび交っている家庭は活き活きとして明るい家庭といえるでしょう。

子どもの話し方は、九四%母親に似る、といわれていますから、お母さんのことばひとつが、どれほど

子どもの人間形成に影響を及ぼすかはかり知れないものがあります。でも「せっかくなことをかけても主人や子どもが知らん顔をしている」「そうおっしゃる方がいます。心配いりませ

子どもの人間形成に影響を及ぼすかはかり知れないものがあります。でも「せっかくなことをかけても主人や子どもが知らん顔をしている」「そうおっしゃる方がいます。心配いりませ

んなのからだにかけているのだ、と思つてくり返しくり返し明るくことばかけを続けることです。からだにかけ

ているのですから、知らず知らずの間からだが覚えま

す。やがてすこしずつ反応しはじめ、ごく自然にことばが返ってくる、やがてみんな

ことばをかけ合うようになります。これを信じてあきらめないことです。

ある学校に、とても性格のいい明るい子がいました。どうい家庭教育をしているのだろうか、と思つた

先生はその子の家を訪問しました。その家族は、お母さんと妹の三人暮らし

でした。「何か特別な教育をされているのですか」と尋ねました。

お母さんは、「私は二人の子と三人暮らしです。学もありませんし、特別なことは何もしていません。でも実行していることが一つあります。それは夕方になると母子三人手をつないで、

美しい夕日を眺めることです。大自然の雄大な姿を眺めていると、小さなことでクヨクヨしている自分の心

が洗われるように思えます。もし私が、いつもグチや不満だらしい生活をしていたら、子ども達もそうした見方でしか成長しないでしょう。それで、母子三人がしつかり手を握り合つて夕日を眺めることによつて、まだまだ大きな世界があるのだとか、希望をもたねばならないとか思ってくるかしら、と考えたからです。」と答えてくれました。

それを聞いた先生は、何か忘れていた大切なものを学んだように思つて帰りました。

自然は、無言でただそこにあるだけ、と思いがちですが、実は大切なことを私達に教えてくれているのです。なにも夕日とは限りません。山があり、海があります。漆黒の空にキラメク星があります。

小さな部屋にとじこもり、目先のことばかりにとらわれていないで、ときには家族揃つて大自然の雄大さにふれるひとときを持つことが大切なのです。

そんなことしたつて子どもの成績が良くなるならだろつと、もし思われたら、あなたの人間性はかなり病んでいと思うのですが、どうでしょう……。

……。